



いるか塾資料
No.2016-3-22
発行 2016-3-22
小林利治

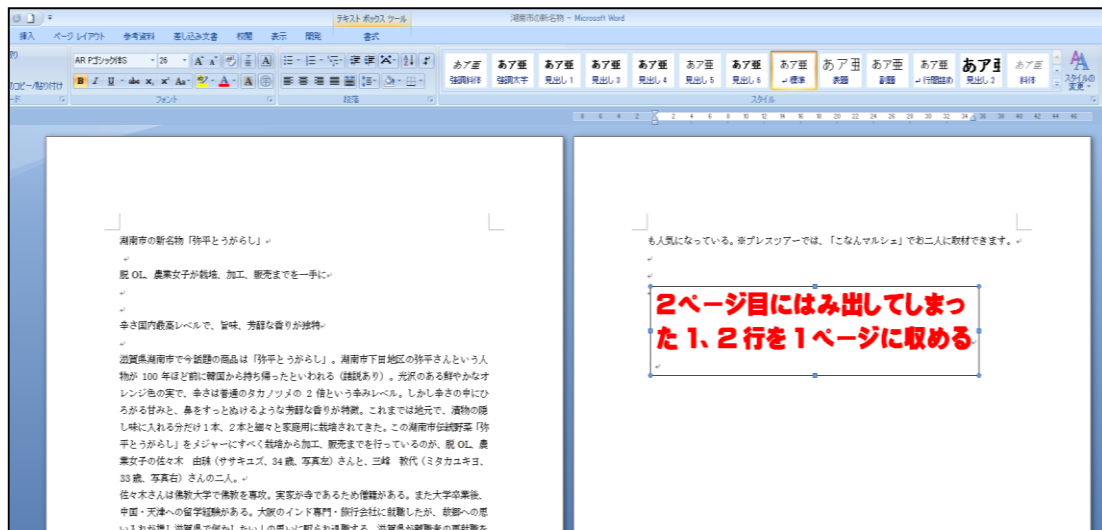


2 ページ目にはみ出してしまった 1、2 行を 1 ページに収める

Word で文書を作っていると、最後の 1、2 行だけ 2 ページ目に送られてしまうことがあります。こんなとき、なんとか 1 ページに収めて印刷したくて苦労した経験はないでしょうか？

ほんの数行はみ出した原稿を 1 ページに収める方法には、何通りかのやり方がありますが、一番早くて簡単な方法は、上下の余白を変更することではないかと思えます。

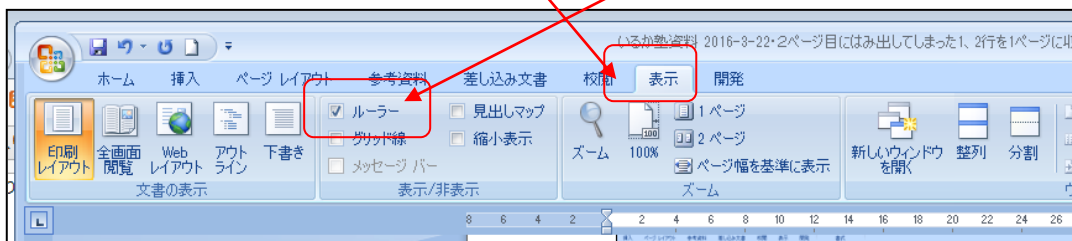
今日はその方法を紹介します。



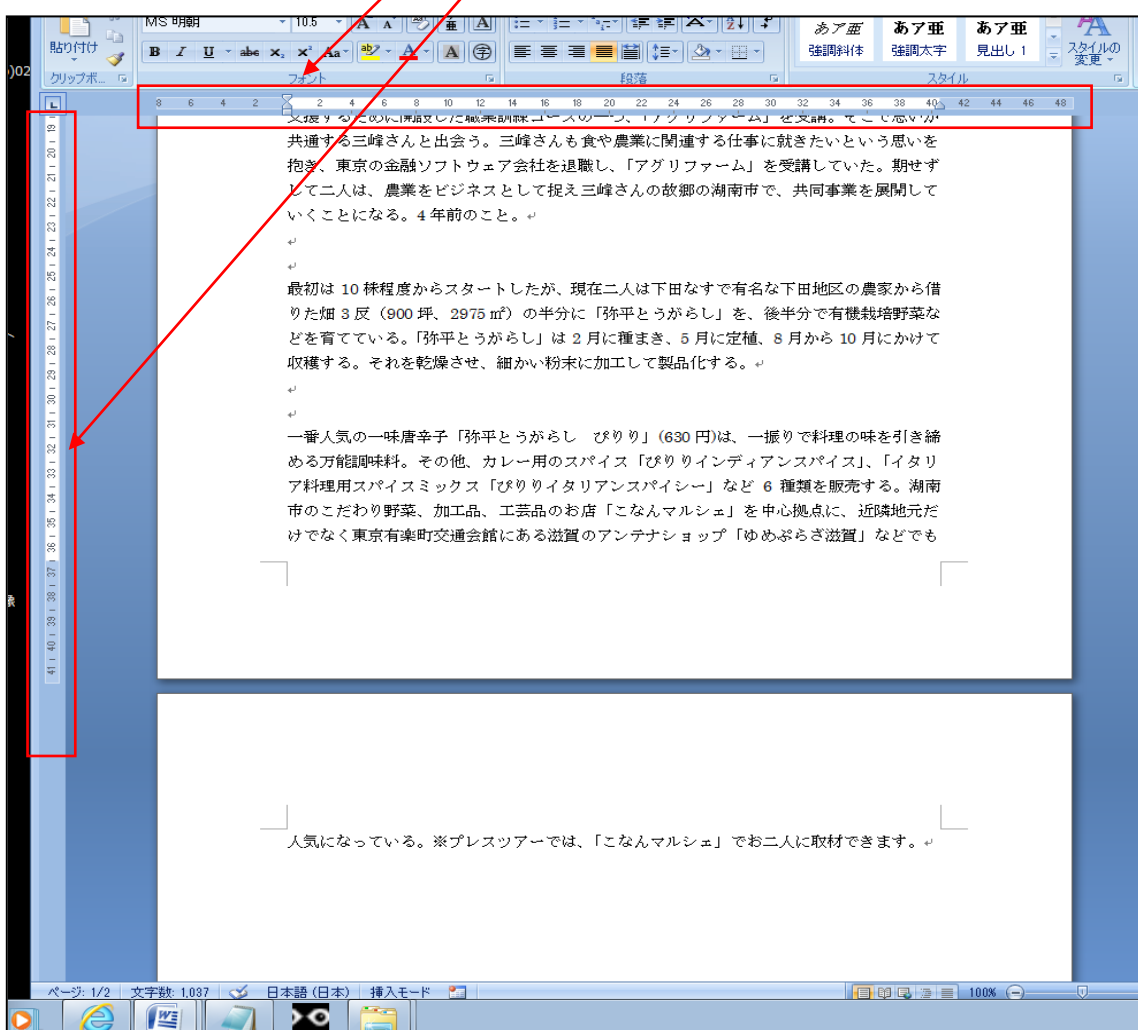
上下余白を変更するには、「ページ設定」ダイアログボックスを開いて操作する方法が一般的ですが、厳密に数値指定をするのでなければ、ルーラーを使う方が速くておすすめです。

そこで、お使いの Word の画面にルーラーが表示されていない場合は、まず、次の手順でルーラーを表示しましょう。

「表示」タブをクリックし、「表示」グループの「ルーラー」にチェックを入れます。



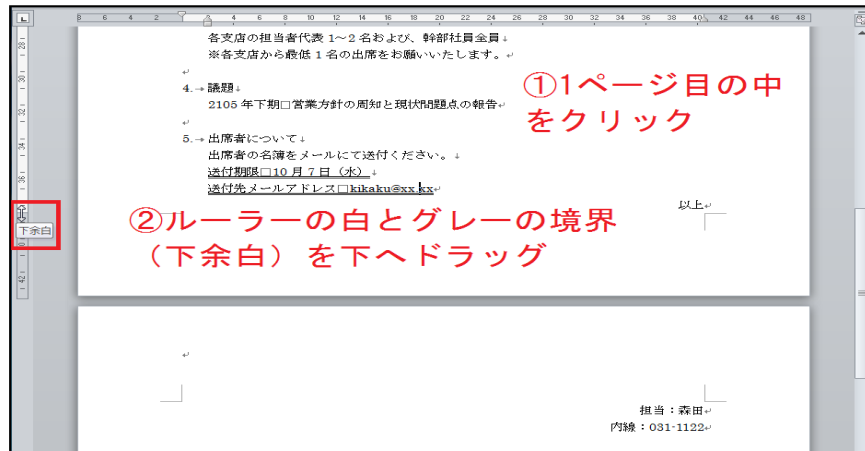
これで、用紙ウィンドウの上と左にルーラーが表示されます



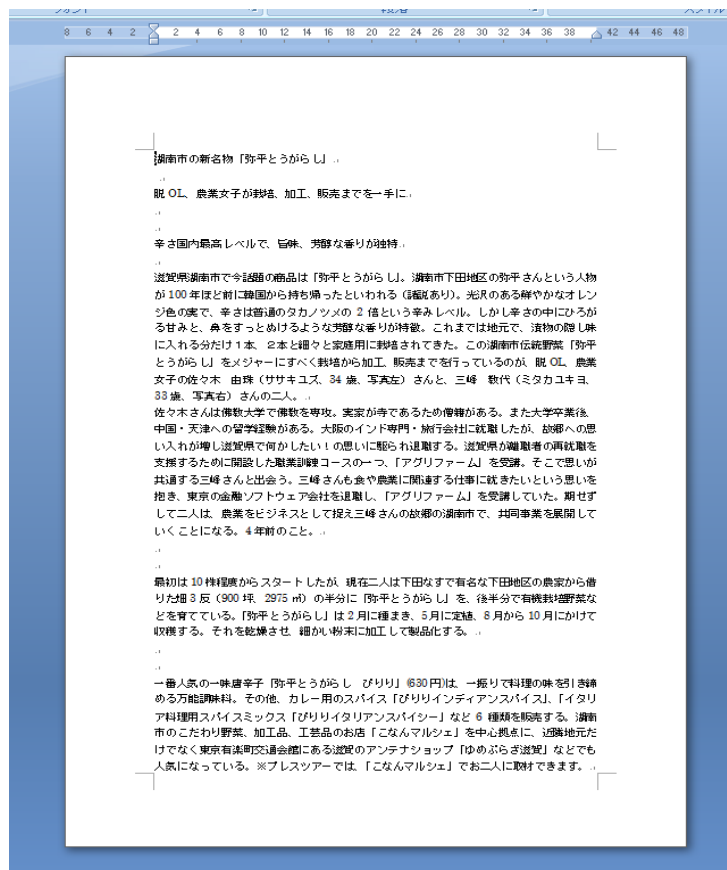
次に、1 ページ目の末尾と 2 ページ目の境目の部分が見えるように画面をスクロールしておきます。

1 ページ目の中をクリックすると、1 ページ目の左側に垂直ルーラーが表示されます。

ここで、白い部分とグレーの部分の境界が、下余白の開始位置になります。この部分にマウスポインターを合わせて、下にドラッグしましょう。



これで下余白が狭くなり、その分、はみ出していた行がページ内に収まります。2ページあった原稿が1ページになったことがわかります。



4ページ5ページの文面を同じようにワードに入力してください。

湖南省の新名物「弥平とうがらし」

脱 OL、農業女子が栽培、加工、販売までを一手に

辛さ国内最高レベルで、旨味、芳醇な香りが独特

滋賀県湖南省で今話題の商品は「弥平とうがらし」。湖南省下田地区の弥平さんという人物が 100 年ほど前に韓国から持ち帰ったといわれる（諸説あり）。光沢のある鮮やかなオレンジ色の実で、辛さは普通のタカノツメの 2 倍という辛みレベル。しかし辛さの中にひろがる甘みと、鼻をすっとぬけるような芳醇な香りが特徴。これまでは地元で、漬物の隠し味に入れる分だけ 1 本、2 本と細々と家庭用に栽培されてきた。この湖南省伝統野菜「弥平とうがらし」をメジャーにすべく栽培から加工、販売までを行っているのが、脱 OL、農業女子の佐々木 由珠（ササキユズ、34 歳、写真左）さんと、三峰 教代（ミタカユキヨ、33 歳、写真右）さんの二人。

佐々木さんは佛教大学で佛教を専攻。実家が寺であるため僧籍がある。また大学卒業後、中国・天津への留学経験がある。大阪のインド専門・旅行会社に就職したが、故郷への思い入れが増し滋賀県で何かしたい！の思いに駆られ退職する。滋賀県が離職者の再就職を支援するために開設した職業訓練コースの一つ、「アグリファーム」を受講。そこで思いが共通する三峰さんと出会う。三峰さんも食や農業に関連する仕事に就きたいという思いを抱き、東京の金融ソフトウェア会社を退職し、「アグリファーム」を受講していた。期せずして二人は、農業をビジネスとして捉え三峰さんの故郷の湖南省で、共同事業を展開していくことになる。4 年前のこと。

最初は 10 株程度からスタートしたが、現在二人は下田なすで有名な下田地区の農家から借りた畑 3 反（900 坪、2975 m²）の半分に「弥平とうがらし」を、後半分で有機栽培野菜などを育てている。「弥平とうがらし」は 2 月に種まき、5 月に定植、8 月から 10 月にかけて収穫する。それを乾燥させ、細かい粉末に加工して製品化する。

一番人気の一味唐辛子「弥平とうがらし ぴりり」（630 円）は、一振りですべて料理の味を引き締める万能調味料。その他、カレー用のスパイス「ぴりりインディアンスパイス」、「イタリア料理用スパイスミックス「ぴりりイタリアンスパイス」など 6 種類を販売する。湖南省のこだわり野菜、加工品、工芸品のお店「こなんマルシェ」を中心拠点に、近隣地元だけでなく東京有楽町交通会館にある滋賀のアンテナショップ「ゆめぷらざ滋賀」などで

も人気になっている。※プレスツアーでは、「こなんマルシェ」でお二人に取材できます。

いっしょ
あそび

元気？

